

# 学習院大学

## 東アジア学交流講座

2007 年度 講義要項

### 第 1 期



日 時： 7月18日（水）～20日（金）

[1時間目] 13:00～14:30 [2時間目] 14:40～16:10 [3時間目] 16:20～17:50

テーマ：韓中関係史をどう理解すべきか？

講 師：洪 性鳩氏 韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科専任講師  
学習院大学客員研究員

通 訳：李 英美氏 法政大学兼任講師

会 場：学習院大学北2号館10階大会議室

※ 参加費無料。事前申し込みは不要です。

主催：日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「東アジア海文明の歴史と環境」  
(学習院大学 [日本]・復旦大学 [中国]・慶北大学校 [韓国])

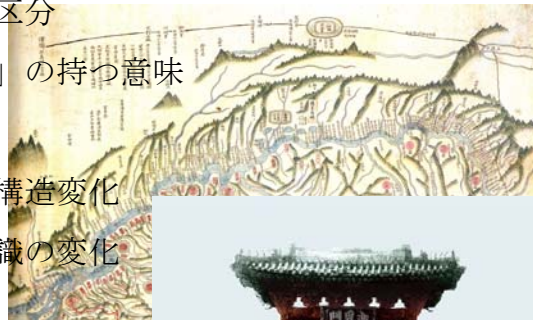
共催：学習院大学東洋文化研究所 助成：学習院国際交流基金

## ○講義の概要

韓国と中国は、地理的な隣接性によって、有史以来絶えず交流と葛藤の関係を結んできた。かねてから先進的な古代文明を作り出し、周辺民族に対して政治的・軍事的・経済的・文化的な優位を有していた中国の周辺で、数千年の間固有の文化を維持することができた朝鮮の歴史は、それ自体が中国との関係設定の歴史とも言えるほど、中国の情勢変動に大きな影響を受けていた。本講義では、朝鮮と中国の関係を歴史的に概観することによって、韓中関係の特質とそれが東アジア史の展開に及ぼした影響及びその意味を改めて考えてみたい。

## ○時間毎の講義テーマ

1. 韓中関係史研究の争点と時期区分
2. 韓中関係における「箕子朝鮮」の持つ意味
3. 「遼東」支配を巡る角逐
4. 征服王朝の登場と韓中関係の構造変化
5. 明清交替と韓中間における認識の変化
6. 朝貢冊封関係の意味
7. 燕行使・燕行録の意味と価値
8. 韓中間の国境問題
9. 東アジアの中の韓中関係



### PROFILE

2004年高麗大学校大学院博士課程修了。2005年4月より現職。主要論文に「清代徽州の保甲与里甲及宗族」『中国史学』13号、2003年。「明末清初の徽州における宗族と徭役分担公議—祁門県五都桃源洪氏を中心に」『東洋史研究』第61巻第4号、2003年など。